

『子どももつどう、学ぶ、つながる公民館』

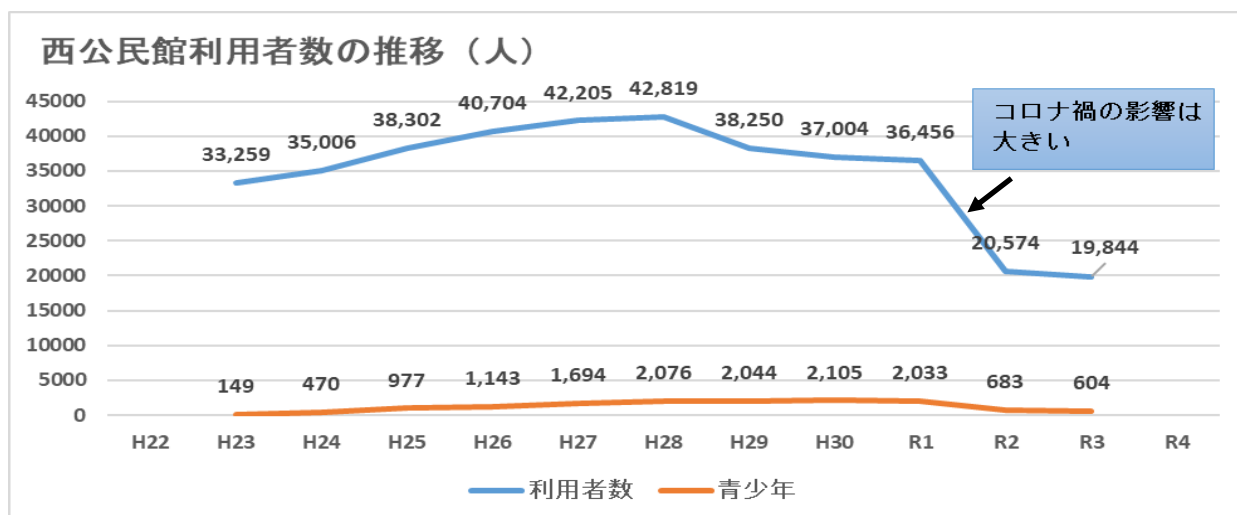
長崎市西公民館

1 はじめに

公民館やふれあいセンター等における子ども（青少年）を対象とした講座や教室の多くは、夏休み等の長期休暇、土曜日や夜間などに開設している。

また、青少年講座の対象は幼児から小学生が中心で、中・高校生は、夏休み等の日に公民館の4階フロアで学習する姿を見ることはあるものの、とても少ない状況である。

下に示す「西公民館利用者数の推移」を見ても、18歳未満の青少年の割合は、全体の約5%前後にとどまり、それらの多くは夏休み子ども教室に参加した小学生の数である。



また、昨年度までは、コロナ禍で夏休み子ども教室が中止となり、青少年にとって、公民館が「学びの場」や「つながりの場」となることはなお一層難しくなっている。

2 令和4年度の主な取組例

(1) わくわくダンス



(2) レクボッチャ



(3) 子ども映画会



(4) おはなしのへや



(5) 親子料理教室①（お魚）



(6) 親子料理教室②（パン）



(7) 夏休み子ども教室



「子ども絵画広場」①②



「子どもサイエンス教室」



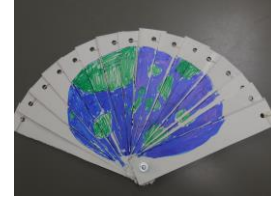
「わくわく！どきどき！科学の広場」



「楽しく英語で遊ぼう」①②



「ペットボトルで風車を作ろう」



「牛乳パックでエコなセンスを作ろう」



「平和子ども映画会」

○ダンスや料理、実験や工作、英会話等々、体験を伴う講座内容は、子どもたちの興味・関心も高く、いきいきと学ぶ姿が見られた。
▲しかし、子どもにとって、公民館自体の認知度は低い状況であり、学校や家庭と連携を深める公民館運営について検討することが必要である。

3 おわりに

- これまで、西公民館では、「認知度を高め、環境を整えて、公民館の利用促進を図る」ことをねらいとして運営してきたが、今後は、さらに青少年の健全育成と地域を結ぶこれからの公民館運営を模索するために、様々に企画して取り組んでいきたい。
- 先ずもって、これまでの講座や学習グループの内容や活動等を、「人づくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」の側面から見つめ、さらに青少年を含めてだれもがいきいきと学びを楽しめる公民館講座や教室をめざすことを課題としたい。
- その際、地域の将来の担い手となる青少年を育成することをねらい、社会教育の側面から青少年の興味・関心あるテーマや内容を検討して魅力ある講座や教室を開設することが必要と考える。青少年のニーズ、生活実態や課題、社会的な課題等を考慮しなければならない。
- これらを実現するためにも、他地区の公民館やふれあいセンターでの講座や教室等の取組内容に関する情報を共有するための場づくりから始めなければならない。
- さらには、コロナ禍で受けた様々な経験を糧としながら、ICTの導入によるオンライン等を利用した講座の開設や受講申込の受付、情報のネット配信等に一層取り組まなければならないと考えている。
- 最後に、公民館としても、下記の長崎市第5次総合計画の成果指標における基準値(現状)からの目標値(R7)を達成することに努めたい。
 - ・地域の行事に参加している小中学生の割合 → 61.2%(R7)
 - ・自発的に学びに取り組んでいる市民の割合 → 44.0%(R7)
 - ・学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合 → 40.0%(R7)